

2013年2月1日

調査レポート

2012年10～12月期のGDP(1次速報)予測

2月14日に公表予定の2012年10～12月期の実質GDP成長率は、前期比0.0%(年率換算0.0%)となったと見込まれる。月次の経済指標では景気が昨年中に底打ちした可能性が高まっているが、実質GDP成長率でも、底打ちの可能性をサポートすることになりそうだ。

前期比で横ばいまで持ち直す最大の要因は、家計部門の底堅さである。個人消費は所得情勢が厳しいにもかかわらず、自動車販売の落ち込みが一巡したなどの理由によって前期比プラスに転じたと予想される。また、公共投資を中心に官公需は増加基調を維持している。一方、設備投資、在庫投資といった企業部門は前期比でマイナスに寄与したようだ。円安や株高を背景に企業マインドは持ち直しているものの、その効果が実際の企業活動に反映されるまでにはタイムラグがあると考えられる。また、輸出も底入れしつつあるが、四半期で見ると減少が続いており、外需寄与度はマイナスだったとみられる。

名目GDPは前期比-0.3%(年率換算-1.2%)と3四半期連続で減少したと予想され、GDPデフレーターは前年同期比-0.7%とマイナスが続いたと見込まれる。

	前期比(%)					
	2011年		2012年			
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
実質GDP	2.5	0.1	1.4	-0.0	-0.9	0.0
同(年率)	10.4	0.3	5.7	-0.1	-3.5	0.0
同(前年同期比)	-0.5	-0.2	3.4	3.9	0.5	0.6
内需寄与度(*)	1.7	0.8	1.3	0.1	-0.2	0.1
個人消費	1.4	0.5	1.1	0.1	-0.4	0.7
住宅投資	4.2	-0.1	-1.1	1.5	0.9	3.3
設備投資	2.2	7.3	-2.4	0.1	-3.0	-2.8
民間在庫(*)	0.5	-0.5	0.3	-0.3	0.3	-0.3
政府最終消費	0.1	0.5	1.4	0.5	0.6	0.3
公共投資	-1.7	-1.3	7.8	5.4	1.5	2.8
外需寄与度(*)	0.8	-0.7	0.1	-0.2	-0.7	-0.1
輸出	8.8	-3.8	3.3	0.8	-5.1	-4.9
輸入	3.5	1.0	2.4	1.8	-0.4	-3.8
名目GDP	2.3	-0.3	1.5	-0.5	-0.9	-0.3
同(年率)	9.5	-1.1	6.0	-1.8	-3.6	-1.2
同(前年同期比)	-2.4	-1.8	2.3	2.9	-0.3	-0.1
GDPデフレーター(前年同期比)	-1.9	-1.6	-1.1	-1.0	-0.8	-0.7

(注) 内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質GDPに対する寄与度
(出所) 内閣府「四半期別GDP速報」

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

調査部 小林 真一郎 (chosa-report@murc.jp)

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2

TEL:03-6733-1070

需要項目別の動向は以下の通りである。

①個人消費（前期比実質＋0.7％）

個人消費は、冬のボーナスが前年比でマイナスとなったと見込まれるなど所得情勢が厳しい中であっても、エコカー補助金の終了後の自動車販売の落ち込みが一巡したことなどから底堅く推移した可能性が高い。

②住宅投資（前期比実質＋3.3％）

このところ住宅着工件数が増加基調にあることを反映して、3 四半期連続で増加したとみられる。

③設備投資（前期比実質－2.8％）

資本財（除く輸送機械）の出荷の減少が続いていることなどから判断すると、前期比で減少が続いた可能性が高い。11 月半ばの衆議院の解散総選挙の決定以降、金融市場では円安や株高が続いており、企業マインドは持ち直していると思われる。しかし、その効果が実際の企業活動に反映されるまでにはタイムラグがあると考えられる。

④在庫投資（前期比実質寄与度－0.3％）

製造業を中心に在庫調整の動きが強まっており、在庫投資のGDP成長率に対する寄与度はマイナスに転じたと見込まれる。

⑤政府最終消費支出（前期比実質＋0.3％）

医療費などを中心に政府サービスに対する需要が増加基調にあることから、引き続き前期比で増加した可能性が高い。

⑥公共投資（前期比実質＋2.8％）

被災地を中心に復興関連の補正予算の執行が本格化していることを受けて、増加基調が続いていると見込まれる。

⑦外需（前期比実質寄与度－0.1％、輸出：前期比実質－4.9％、輸入：同－3.8％）

海外景気の減速を受けて、輸出は前期比－4.9％と2 四半期連続で落ち込んだと見込まれる。一方、輸入も発電用エネルギーの輸入量の増加が一巡していることなどから、前期比－3.8％とマイナスに転じたと予想される。この結果、外需のGDP成長率に対する寄与度は－0.1％と小幅ながら3 四半期連続でマイナスになったと思われる。

⑧GDPデフレーター（前年同期比－0.7％）

物価の下落基調に変化はなく、GDPデフレーターは前年比－0.7％と引き続きマイナスで推移しているとみられる。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。